

植物と人々の博物館メールマガジン

第 80 号 2021 年 10 月 1 日発行



武蔵野公園ではヒグラシは一度一鳴きしか聞けませんでした。今年は雨が多く、日照が不足だったです。秋の虫ばかりになり、野川の辺で稲刈りが済みました。キッチンガーデンではウズラマメ（ひよっと）は芋虫に、ヒエ、モロコシはハクビシンに食われてしまいました。マイタケの大きい株が出て、てんぷらにしました。トウガラシで柚子胡椒を、バジルのジェノベーゼは 4 回作り、2 月に仕込んだ味噌を使い始めました。秋野菜の種子は播きました。

COVID が小康状態になったら、町にも村にも少し出かけたいです。お大事にお過ごしください

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。このメルマガは今回から、個別 bcc ではなく、お方の方にはメーリングリストでお送りします。

1. 植物と人々の博物館

1) 開館・作業予定日： COVID19 が小康状態になるまで、休館します。

2) 民族植物学ノオト： 第 15 号電子版は原稿募集中です。論文、随筆などなんでも、ぜひご寄稿ください。締め切りは 2021 年 12 月末、2022 年 3 月発行予定です。安孫子さんから降矢静夫書簡集、降矢俳句解説の 2 編をいただいています。岩手県の方から寄稿のご連絡がありました。編集子は 1968 年以来考えてきた「大学論」を準備しています。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

3) 電子書籍：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍（既刊）の項で読めます。『第四紀植物』『第 8 章栽培化過程と自己家畜化（仮題）』に続き、年内に全章を書き終える予定です。今は、ヒエの地理的起源に関して再考しています。一部公開中：『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』、『日本雑穀のむら』、“Essentials of Ethnobotany” の一部公開はまだ先になります。発行予定：『山村農人降矢静夫対談集』（降矢静夫・木俣美樹男）。これらは書き終えたら、電子出版にします。木俣美樹男 2022、クリンネスは偶数月に連載継続します。

5) 寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」ほか。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation を作ります。

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のためにご協力を、よろしくお願ひします。

郵便振込口座は下記です。講座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会
口座番号：00100-2-665768

2. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習理論・実践「環境学習原論」を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作りました。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学びあう市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。12世紀、ルネサンスの先駆けであった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。ただ、学び合いたい人々が存在するだけです。学ぶ意味や大学について改めて考え直したいです。このサイバー大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の協力（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。下記のセミナーの過去動画や予習・復習資料 pdf およびご案内は下記のサイトにあります。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

セミナー座談会に参加ご希望の方は下記にメールください。ご案内や資料（ZOOMのURL）などお送りします。 kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男あて

第3回環境楽習会「環境学習原論」

日時：10月31日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館およびZOOM

話題：生涯にわたる環境学習過程（30分）。座談会（90分）。

第2回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：11月23日（火祝）14：00～16：00

場所：カエルハウスおよびZOOM

話題：農山村の多面的機能、エコミュージアム、スタディ・ツーリズム（30分）。座談会（90分）。

* カエルハウスの主宰は片山薫さん（小金井市会議員）で、家庭菜園や市民農園などの学習会を一緒に始めます。これまでの自給農耕ゼミの参加者の方もZOOM参加していただけると嬉しいです。

第4回環境楽習会「環境学習原論」

日時：12月26日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館およびZOOM

話題：気候変動に対応する暮らし（仮題）「気候変動に対応する暮らし」

話者：藤村コノエさん（環境文明21代表）

3. 雑穀街道普及会：

小金井では雑穀の祖先種や近縁種が身近に生えているのですが、どうして栽培化されないのか不思議ですね。野川の辺には縄文時代以前から人の暮らしがありました。ケイヌビエは栽培ヒエと遜色ないくらいの穂と種子粒をもっています。小金井に暮ら

した縄文人は採取して食べていたのでしょうか。

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、「街道美味」は下記のホームページをご覧ください。会費は任意、会の規模が大きくなり、事務経費が必要になるまでは求めません。少しずつ、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降、この島嶼に住む人々の命の糧であった雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培継承者が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果(1974~2017)をまとめてあります。現在は第5章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

4. 自然文化誌研究会

主な活動予定：詳細は下記ウェブサイトにあります。

5. 小金井環境市民会議

毎月運営会が開かれています。11月に予定されている小金井環境フォーラムについて話し合いがありました。

~~~~~

**植物と人々の博物館** (山梨県小菅村)：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男 (東京、運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、藤盛礼恵 (千葉、運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野) ほか

公式HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

環境学習市民連合大学 <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会／トランジション小菅** (山梨県小菅村)：

代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

**自然文化誌研究会**：代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

~~~~~

写真：マイタケ、10月桜、満月の西入りと日の東出（同時）

